

第151回

え、それって 進藤晶子の どういうこと?

今回のゲスト

NHKアナウンサー
久保純子

情報化、IT化はどんどん人間の生活に近づいてきています。
キーワードは「人に優しい」ってことだと思っんですよ

NHKのアナウンサー以外にも、12月10日から開催される
『世界情報社会サミット』の親善大使を務めるなど、多岐に
わたって活躍中の久保純子さん。一方、結婚、出産を経た
彼女の日常について、アナウンサーどうしの本音で対談!



しんどうまさこ
1971年9月10日生まれ、大阪府出身。
TBSアナウンサーからフリーに。
ホームページは www.shindou-masako.com。
「出産後をまとめた単行
本『出産の先』」が好評発売中。

進藤 このたび「世界情報社会サミット」の親善大使になられて。

久保 はい。今年の12月10日から12日まで、スイスのジュネーブで開催されます。

進藤 総務省から任命されたということですが、任期はいつまでなんですか。

久保 サミットが終了するまでの期間です。

進藤 この、世界情報社会サミットの仕組みと目的を教えてくださいませんか。

久保 国連が主催するもので、世界各国の首脳級レベルの方々などが一堂に集い、「情報社会」に関して行う会議としては今回がはじめてとなります。IT化がこれからますます進んでいくという今、世界共通の取り決めをしたり、直面している問題について国際的な話し合いの場をもつことが重要になってきています。例えば、年齢、男女間、国別の差などの問題について、特にITでは、大きな情報格差「デジタル・デバイド」が生じていて、それを解消するためにはどうすればいいかというのは大きな問題のひとつです。日本からは「ユビキタスネットワーク社会」をテーマとして提案しています。「ユビキタス」とはラテン語で「遍在する」という意味で、例えば携帯電話などの端末ひとつで電子決済ができた、外出先からエアコンをつけたりお風呂を沸かしたりできる

ようになる。「いつでもどこでもつながる社会」ということです。そういったさまざまなトピックについて話し合う場が、世界情報社会サミットです。

進藤 その会議で、純ちゃんの役割というの？

久保 私は、もちろん会議には出席するわけではなくて(笑)、国内外で「サミットが行なわれるんですよ!」情報社会というのは私たちに身近なことで、こんなふうに生活が変わるから、みなさんも注目してくださいね」と広報活動をするのがその役割です。例えば10月には、ジュネーブで行なわれた「テレコムワールド2003」というIT関係の展示会に行つて、ITの最新動向を勉強したり、ITU(国際電気通信連合)の内幕、雄雄事務局局長などサミットの関係の要人の方々と対談もしてききました。

進藤 橋渡し役ですね。私みたいなITにチンパンカンパンな人間をも誘導してくれて、興味をもたせてくれる。

久保 でも、実は私もチンパンカンパンだったので、一生懸命勉強しているんですよ。

進藤 サミット開催中の3日間は、ジュネーブに行かれるの？

久保 ええ。ジュネーブでは、サミットの本会合のほかに、会場内でワークショップなどのサミットイベントが行なわれます。そこで私はシン

ポジウムの司会をさせていただきま

す。日本の携帯端末製品を紹介する展示会にも参加します。実は今、その準備中なんです。

進藤 では、番組づくりと同じように、内容をみんなで考えながら。

久保 そうなんです。でも私はITの専門家ではありませんので、みなさんに教えていただいているという感じですよ。

進藤 それにしても、資料を読んだり、勉強が大変そうですね。

久保 大量の資料があるんですよ。私、もともとまったくのアナログ人間なんです。

進藤 私もアナログ人間だから、スゴイなあって思ってたの(笑)。

久保 だって、携帯電話ではメールもインターネットもやっていないんですよ。

進藤 えっ、純ちゃんが? あら! 意外だね、ステキ(笑)。



▲旧知の間柄である2人。久々の再会に、お互いの近況を確認し合うなど、終始和やかな雰囲気でお話。

久保 そんな私が大使になったことが不思議なんです。ITのエキスパートではなく、一般の目線を大切にしたいというのが重要な、と思つてやらせていただいています。

進藤 だから、わからないことはどんどん専門家の方々にうかがつて、なるべくわかりやすくしてみなさんにお伝えできればと思つています。実は「ブロードバンド」とは?、「IPv6」とは?など、用語集から読み始めなくてはいけない状態からのスタートだったんですよ。ビデオの予約録画にも苦労しているくらいなので(笑)。

でも今回親善大使に任命され、勉強させていただいたことによって、いろいろなことがわかってきました。

「IT化というのは、こんなに私たちに身近なことなんだ、生活が変わるんだ」と。ですから、必ずや訪れると言われているユビキタス社会にうまく対応していくことが大事なんだと思います。

進藤 自分なりに、ですね。

久保 ええ。携帯電話やコンピュータの進化に、呑まれるのではなく、自らきちんと選択して使っていく方法を身につけるべきだと思うようになりました。例えばこれから何年後になるかはわかりませんが、お年寄りの方でも携帯電話ひとつもつていれば、ご自宅からでもポタンひとつですぐに救急病院と連絡が取れたり、お金の決済ができた、いろいろなことができるようになる、とい

ます。そういう意味では、ユビキタスネットワーク社会というのは、人に優しくなる「社会」なんです。

進藤 そういふ世界から遠くにいる人たちが、もつとも必要なことなのかもしれないですよ。

久保 本当に。情報化、IT化という、どうしても横文字がいっぱい並んで、どんどん自分とかけ離れた複雑な世界に入っていくような気がするんですが、実はそういうイメージとは反対に、人々の生活に近づいてきている。キーワードは「人に優しい」ということだと思います。そういう世界に向けて、今一生懸命土台づくりをしている段階なんです。

「ユビキタス社会が来れば母の立場からも便利だと思ふ」

進藤 「母」という立場から、こういうのがあると便利なのにと、こういうのがあったんだ、というように発見、なにかありましたか。

久保 「これっていいですね」と私が思わず口にしたのは、例えば保育園やベビーシッターに預けなければならぬときに「今、子供はどんな様子かな?」ということがとても気になるんですよ。そんなとき、携帯電話を遠隔操作して手元の画面で手軽に娘の様子を見られるようになるというところなので、そういう方面にはとても興味があります。

進藤 なるほど。

久保 それと私、名刺を交換した後

子供に手が掛かるのは、今だけだから

どれもせっかくのチャンスだと思つて楽しみたい

新時代のトップランナーたちに訊く!

進藤晶子のえ、
それってどういうこと?



結婚、出産後、周りの音が気にならなくなったのはどうして?

に、いただいた名刺をきちんと整理、保管するのが苦手なんです。そういうことも携帯電話ひとつで、ピッてボタンを押すとお互いの顔や情報交換できるようなになればとても便利だなと思います。それから、江東区のスーパーではもう始まっているんですが、端末をひとつもつていれば販売されている商品の賞味期限はもちろん、産地や店舗に搬送されるまでのルート、原材料などのさまざまな情報をすべて得ることができるようなんです。そうなれば食材、特に子供が食べるものに関して、とても気をつけられるようになりますし、進藤 やはりママとしては、子供が口に入れるものにナーバスになるものですか。

久保 なるなる! それほど神経質にはなっていないけれど、やはり心配ですね。

進藤 そういったシステムがあれば便利だし、安心ですね。

久保 ええ、とても。でも、それを使うのは人間であってこそ。あくまでも私たちが主導で使いこなしていけばいいと思うんです。

子供を産んで、自分の目標がより明確に見えてきた

進藤 NHKの「契約職員」になりました。以前とどんな点が変わりましたか?

久保 契約職員になったとはいえ、肩書きも「NHKアナウンサー」で、番組も前と同じように担当させていたでいるので、あまり変わったような気がしないんです。

進藤 これまでと、お仕事の流れは変わらないんですか?

久保 はい。でも、なぜ契約職員に

なったのかということについては、子供が産まれたことによって、気持ち劇的に変化したというのが経緯としてはあります。「このちっちゃい我が子と、できる限り一緒にいたい」と願うと同時に、60歳を過ぎた母が経営している英語教室のサポートをしたいと思います。フルタイムで働きながら私を育ててくれた母に、少しでも恩返しをしたい……。ですから現在、週2、3回はその英語教室で幼稚園児から小学校4年生の子供たち50人くらいに英語を教えています。

進藤 子供たちからは、なんて呼ばれているんですか?

久保 「純子先生」(笑)

進藤 純子先生! うわつ、ピッタリ(笑)。

久保 でも「純子先生」って呼ばれるには、まだまだ頼りないんですね(笑)。

進藤 では、週に2、3日はその英語教室に通って、教えてらっしゃるのね。

久保 ええ。NHKにも週3回は出勤していますし、それに加えて今は情報社会サミット関係のお仕事もあるので、フルタイム稼働です! もう「24時間働けますか?」状態(笑)。

進藤 はあ、パワフル!

久保 夜は9時、10時に子供が寝るまでは一緒に遊んで、それから番組の準備やサミットの勉強をするという毎日です。それが終わったら寝て……。でも明け方の4時、5時には子供が夜泣きをするので、それにもおつきあいをし。

進藤 うわあー!

久保 ……という感じだから、ちょ

っと睡眠不足ですね。

進藤 大変だ。

久保 でも、そうやって子供に手が掛かるのは、今だけです。それならばどれもせっかくのチャンスだと思っ楽しんで、いろいろなことに挑戦しようかな、と。私は常に動いているのが好きな人間なので、忙しいほうがいいみたいです。

進藤 出産されてからの変化というと、具体的にどんなことですか?

久保 細かい小さなことでもいろいろと変わってはいらるんですが、自分の今の「位置」が明確になった気がします。めざしたいものや、今後やっていきたいこと、10年、20年先に自分がこうでありたいというような具体的な目標ができたことが大きいですね。

進藤 というところ?

久保 私がNHKに入りたいちばんの理由は、教育番組をやりたいからなんです。これからは子供や語学番組の道へ確実に進んでいきたいと思えますし、最近では具体的に番組の構成を考えたりするようにもなってきました。

進藤 それはやはり、出産したことが大きいんですか?

久保 そうですね。この、目の前にいる自分の子供が興味をもつものが私とは全然違ったり、「子供ってこんなところに反応をするんだ」と改めて知ったり。子供が発する言葉や発想は、自分ではもう忘れてしまっている感覚で……。30年余り生きてきた私とはまったく違う無垢なものをもっている彼女に、私の気持ちを素直にぶつけていくと、思いもよらないような新鮮な反応が返ってきて、

進藤 進藤

久保



久保純子

KUBO JUNKO

72年東京都生まれ。小学校時代をイギリスで過ごし、高校時代は米国に留学。'94年に慶應義塾大学文学部を卒業後、NHKに入局。その後、大阪放送局勤務を経て、'96年に東京アナウンス室へ。「ニュース11」でスポーツを担当し、「クボジュン」の愛称で視聴者の間に親しまれる。'98年から3年連続で「紅白歌合戦」の紅組司会を担当したほか、「プロジェクトX」、「ポップジャム」などの人気番組の司会を務めた。'00年に結婚後、'02年1月に長女を出産。産休を経て、同年6月からNHKのアナウンサーとして契約職員となり、復職。現在は「お宝映像クイズ見ればナットク!」、「地球ふしぎ大自然」を担当。今年7月、総務省から「世界情報社会サミット」の親善大使に任命される。

追伸 from 晶子

純ちゃんとの出会いはアナウンサー試験でした。面接前、トイレでばったり顔を合わせ、あまりの可憐さにしびしり呆然としたことを覚えてます。就職後も、局は違っても、スポーツの取材現場などで顔を合わせる機会が多く、周囲に気遣いながら懸命に仕事に打ち込むお姿は、「私も頑張らなくちゃ」と、いつも励みにしておりました。ニコニコ微笑みながら、大きなお仕事をサリとこなしてしまふ。純ちゃんパワー恐るべし！なのです。華奢な身体で何役も。睡眠不足なのが心配だけど……。頑張れっ、純子先生!!

わかつてくれる人が側にいる、という安心感があるから

とてもおもしろいんです。
進藤 それは、どんなことが新しい発見につながるんですか。
久保 例えば一緒にテレビを観ていても、大人には当たり前になつていて色の鮮やかさや組み合わせに驚くほど反応したり、キャラクターにしても心を捉えられるところが違うんですね。「これはいいけど、こっちは全然おもしろくない」という顔をしています。
進藤 もう好き嫌いがハッキリしているんですね。
久保 ええ、よく見えています。私たちが見過ごしたり、あえて見ようとしていないことを子供はしっかり見えています。
進藤 ということは、私たちは年を重ねるごとに、どんどん鈍感になっていくのかしら。

久保 絶対そうだと思いますよ。大人って、情報として必要ないものは当たり前に見ないようになっていくんだと思います。自然に選択しちゃうっているんですよ。でも、それを子供はすべて見ているんです。
進藤 なるほど。確かに、いろんなことを見過ぎていて大人がつくる子供番組と、子供の反応をちゃんと理解している人がつくる番組とは違いがありそうですね。それにしても……純ちゃん偉いっ！
久保 全然(笑)。育児に仕事に本当に大変ではあるんですが、今は自分の実力以上の能力を求めて頑張っています(笑)。

時代と、結婚後、そしてお子さんが産まれてからで変化はあります。久保 あまり変わっていません。ただ精神的に自分を追い詰めなくなっただけかもしれません。結婚した当時は女性アナウンサーということで必要以上に取り沙汰されたり、自分でも思つてみないところで名前が出たりすることにとっても苦しんでいました。もともとと頑張りなくてはいけなくて常にも思っていました。でも、今はそういう周りの音をあまり気にしなくなりました。
進藤 それはどうしてだろう？
久保 うーん、帰るところができたというか、どんなことがあってもわかつてくれる人が側にいる、という安心感があるからでしょうか。子供ができて育児をすることによって、今度は仕事のありがたみも感じるようになった。

うになりました。「仕事ってこんなに楽しかったんだ」と。
進藤 うーん、相乗効果だね。
久保 育児はもちろん、私は仕事をするのが大好きだと再認識したんです。ひとつひとつの仕事への取り組み方も変わりました。時間が限られているぶん、集中しないといけない。だからすごく短期集中型で。
進藤 余計なことを考えているヒマがない、と。今後の夢としては、子供番組に携わることでいいですか。私、今日もなんとなく教育テレビを観ていたんですが、子供向けの番組って変わってきてますよね。大人が観てもおもしろい。「にはんこであそぼ」とか、ね。
久保 そうですよ、大人気ですよ。『おかあさんといっしょ』や『ややこしや』、『みんなのうた』などなど。

進藤 そうですよ。U.A.さんが歌っていたり。
久保 『ドレミのテレビ』のU.A.さんですね。ママさん大活躍！
進藤 「純ちゃんはこのうたをやりたいんだな」って、子供番組に関わっている姿がイメージできてしましました。
久保 本当は私が歌えたら、U.A.になりたかったのになー！
進藤 本当に？(笑)
久保 家で子供と『おかあさんといっしょ』や『セサミストリート』を観ていると、いつも「あのなかに私も混ざりたい」と心底思うんです。進藤 そのなかにいても、全然おかしくない(笑)。
久保 いずれ、歌のおばちゃんとしてでも出られるように、頑張ります！(笑)